

世帯と人口
(平成5年11月1日)
世帯 38,276 (+37)
人口 110,735人(+97)
男 57,183人 女 53,552人

広報えびな

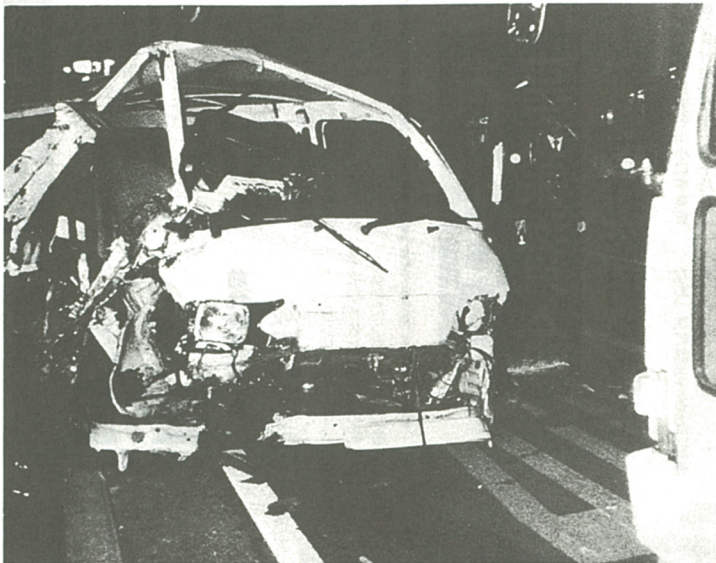
編集・発行
海老名市役所広報広聴課
〒243-04
神奈川県海老名市勝瀬175
☎ (0462) 31・2111

歳末は気を引き締めて

今年も年の瀬の音が聞こえてくる頃となり、気持ちにゆとりがなくなってきたから、戸締まりや火の始末に対する警戒心が薄れがちになります。また、犯罪や事故に対しても不注意になってきます。そこで市や警察では十一月二十日から来年一月三日までの間、犯罪や事故防止のため「年末年始特別警戒」などを行うほか、飲酒運転・無謀運転の追放のための「交通事故防止運動」を、また、年末の火災予防として「歳末火災特別警戒」などをほぼ同時期に実施します。みなさんも犯罪や事故の防止、火災予防に注意し、家族そろって楽しいお正月を迎えたい。

酒酔い運転は免許取り消し

海老名市交通安全対策協議会
では、十二月十一日から二十日
までの十日間、「年末の交通事故
防止運動」を実施します。



取り返しのつかないことになる前に...

去年の実績でも、死亡事故の約三割が飲酒に
関係していま
す。事故を起こし
た人は「少しし
か飲んでいるに
おいて」「酔いを
覚ましてから運
ぶ」をねらった犯罪が増えきて
ます。

戸締まり、鍵掛けを忘れずに

年末は買い物などで、家を留守にする機会が多くなり、気持ちも落ち着かない時期でもあることから、戸締まりを忘れて空の家に「酔いを覚ましてから運ぶ」をねらった犯罪が増えきてます。

- ① 戸締まりを確認しましょう。
- ② 長期間留守にするときは、新聞や郵便物の取り込みを、お隣りに頼みましょう。
- 【スリ、置き引き】
- ① 買い物かごやバッグに財布などを入れるときは、外から見えないようにしましょう。
- ② 忘年会などの帰りの電車内では、貴重品に十分注意を。
- 【乗り物盗】
- ① 車から離れるときは、少しの時間でも鍵を抜き、ドアロックをしましょう。自転車などは、ワイヤー錠で二重ロックしましょう。
- ② オートバイ、自転車の路上放置は、盗難に遭いやすいので、必ず駐輪場に入れましょう。
- 【車上ねらい】
- ① 車の中に財布などの貴重品は置かないで、必ず持って出てドアロックをしましょう。



鍵さえ付けていればこんなことには...



ちょっと目を離したすきに...

年末は、暖房や料理などで火を使うことが多くなり、また、子供などが家の中で遊ぶことが多く、忙しいこともあって火の取り扱いがおろそかになる月でもあります。

原因はストーブ、時間は夜7時

最近、市内で放火または放火の疑いがある火災が発生しています。家の回りには、燃えやすいものを置かないような、防火対策をしてください。

去年は三十三件の火災が発生し、一人が死んでいます。火元は、石油コンロ、ガスコンロや石油ストーブが主な原因です。また、火災発生が多い時間帯は、午後七時から八時が最も多く、続いて午後一時から二時となっています。一人ひとりが、火の取り扱いに十分注意を払うことが必要です。

フォトピックス

中野田小学校グラウンドで行われ約二百五十人が参加した。今回は、通常のゲートボール競技のほかに、高齢者に交通安全の意識を高めてもらうと、コート内に横断歩道や、交通標識などを設置し、交通ルールを学びながらの趣向を凝らしたゲートボールも行われた。



一風変わったゲームにとまどいも...

ボールをしながら、横断歩道の正しい渡り方などを改めて教えたり、楽しみながら学べました」という声も聞かれた。

十一月十三日、宮城県白石市と友好・姉妹提携をしている当市、登別市、札幌市白石区の小・中学生が白石市に集まり「スハッ シュランド(四市らしいし) シュランド」を開催した。この大会は、水泳を通して子供同士による交流と親睦を深めようという行われたもので、今年で二回目。当市からは、市水泳

十一月十三日、宮城県白石市と友好・姉妹提携をしている当市、登別市、札幌市白石区の小・中学生が白石市に集まり「スハッ シュランド(四市らしいし) シュランド」を開催した。この大会は、水泳を通して子供同士による交流と親睦を深めようという行われたもので、今年で二回目。当市からは、市水泳



練習の成果を発揮して...

協会が選考した男女二十八人の選手が参加。日ごろの成果を十分に発揮し、総合第二位の立派な成績を収めた。

大会終了後、白石市の家庭にホームステイをした選手は「白石に友達もできて、とても楽しかった。来年も水泳大会に出場したい」と話していた。

交通ルールも学ぶ

十一月十四日、市老人クラブ連合会(廣澤登喜雄会長、48団体)主催のゲートボール大会が

多彩な催しや展示に感嘆

ささら踊りに観客も飛び入り参加

市民文化祭

市内の各種団体が日ごろの活動成果を披露する「市民文化祭」が、十月三十日、十一月三日、六日、七日の四日間、市文化会館など四会場で行われ、約一万八千人が来場しました。この文化祭の様子を、広報モニターの西本洋子さんに取材していただきました。



夢あふれる作品がいっぱい!

今年の文化祭は、お天気に恵まれ、子供からお年寄りまでが楽しんで参加できた祭典となりました。各会場とも、力作が所狭しと展示され、来場者からも感嘆の言葉が聞かれました。

また、文化会館の大ホールでは、日本舞踊やダンスなど、いろいろな分野からの発表がありました。ささら踊りのときには、観客も飛び入り参加して踊り出すなど、会場は終始、アツトホームな雰囲気包まれていました。

また、文化会館の大ホールでは、日本舞踊やダンスなど、いろいろな分野からの発表がありました。ささら踊りのときには、観客も飛び入り参加して踊り出すなど、会場は終始、アツトホームな雰囲気包まれていました。

と、食生活部門には秋の旬のもので作られた「お弁当シリーズ」が展示され、ここでは、うれしいことに試食もできました。

手工芸部門には、手に下げてみたくなるようなバッグがあったり、華道部門では、すばらしい作品のひとつひとつに、ちゃんと花の名前も書き添える「気配り」に感心しました。また、俳句、短歌、万葉部門には、歌人の生活感あふれた作品が多く、美術部門では、プロも顔負けと思えるような作品と出会うたびに、自然と足が止まりました。



観客が飛び入り参加したささら踊り

また、文化会館の大ホールでは、日本舞踊やダンスなど、いろいろな分野からの発表がありました。ささら踊りのときには、観客も飛び入り参加して踊り出すなど、会場は終始、アツトホームな雰囲気包まれていました。

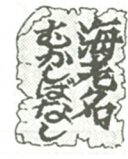
海老名むかしむかし

電話で海老名の昔ばなしが聞けます。

11月24日-12月15日 第16話 刃のはしこ

12月16日-1月7日 第17話 水飲み竜

333・3838

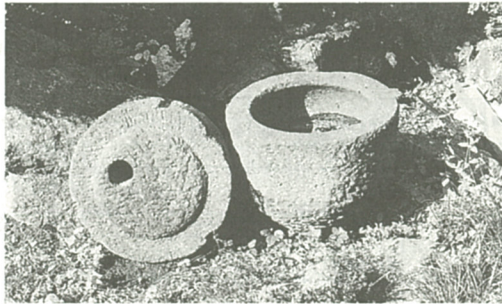


第315話

国分の水車とむじなの土産

国分字杉本から目久尻川の水を取り入れ、海老名耕地の灌漑に用い、舟運の便を図る運河との二つの目的に用いられていた人工の逆川は、また水車の用にも役立っていた。その水車の一つは、逆川の水が九里の土手を落下しようとする所の国分字並木にあった。水がどどん勢よく音をたてて流れるので「どどんびき」の音響地名が生まれた所である。

この水車は、地元の門倉丑之助氏の先祖の創業というが、明治四十五年四月、小野沢治助さんが、水利に関係深い国分以南から寒川町宮山に至る十ヶ村落の承認を得て操業したことは確かである。その規模は水車の径十二尺(二・六尺)、臼数は二十(三十三)張り七個であった。廃業は昭和七、八年ごろという。国分には、このほか相模横山東部の字瀧ノ下に二百あった。



粉引き用の万力臼(左)と二斗張揚臼(右) 国分南二丁目、倉橋和夫家蔵

八五三年の「香葉帳」があるから、これより以前の創業であろう。氏後は養子の治作さんが継いだ。堂々とした体格の持ち主のうえに、職業柄、つねに米俵や麦俵を持ちだした。大正八年九月十七日に七十七歳で亡くなったが、この人がまだ若いころのことであつた。

ある年、大谷の八幡様のお祭りに、親せきの招きを受けて参られた。帰りの夜道は、人家のある国分の新道回りになっていた酒の機嫌も手伝って、山道の多い浜田峰の近道を選んだ。

長泉寺峰のころ治作方は水車業はやめていた。明治十七年には、まだ現在地へ移転していないから、廃業はこの期間内ということになる。

前段の「水車(水見舞)」とあるのは、同じ瀧ノ下でも南部にあつた水車で、今より二百年前、倉橋仁左衛門(現和夫家)の創業と伝えられている。

この水車は目久尻川の屈曲部を利用し、僅か松丸二本で軽く塞ぐだけで取り入れ口から水を引き入れた。水車の大きさは径十五尺(四・五五)で、二斗張臼十二個、別に粉引き用の万力臼もあつた。明治末年から経営者も変わったが、関東大地震で完膚なきまでに潰れてしまつた。国分にあつた三軒の水車屋は、今はすべて跡形もない。これら時の流れである。

注) ほんこつ、石や昆布などで肩間を狙つて人を殺し物を奪う人。(池田 武治)

昭和末期に取り壊した石の水門は明治十七年の造成で、幅は二・七尺、平時でも何枚かの堰板が張つてあり、それを越えて、「サー」と音をたてて流れる水が落ちていた。落差は三、四尺に達した。いざというときは、堰板を全部取り払って放水した。溢れる水の勢いを反らすので、この水門を「せらし」と呼んでいた。

明治十七年以前の水門の構造はわからないが、その落下する水を利用して、ここに横掛け式の水車があつた。今、ここより少し南方に居住の倉橋勝夫家の先祖の創業という。同家に安右衛門という方の子による「明治八年九月、車水揚仕揚帳」という帳簿がある。表紙をめくると、

水車記

一、大麥四斗、谷戸新六殿

一、大麥五斗、逆川紺屋

などと連筆に記帳してある。別に同氏筆の嘉永六年(一